

第2回

地域で子どもに関わるための 「作業療法」の基本



毎木曜の基礎講座
作業療法士による学童保育コンサルの
基本と事例



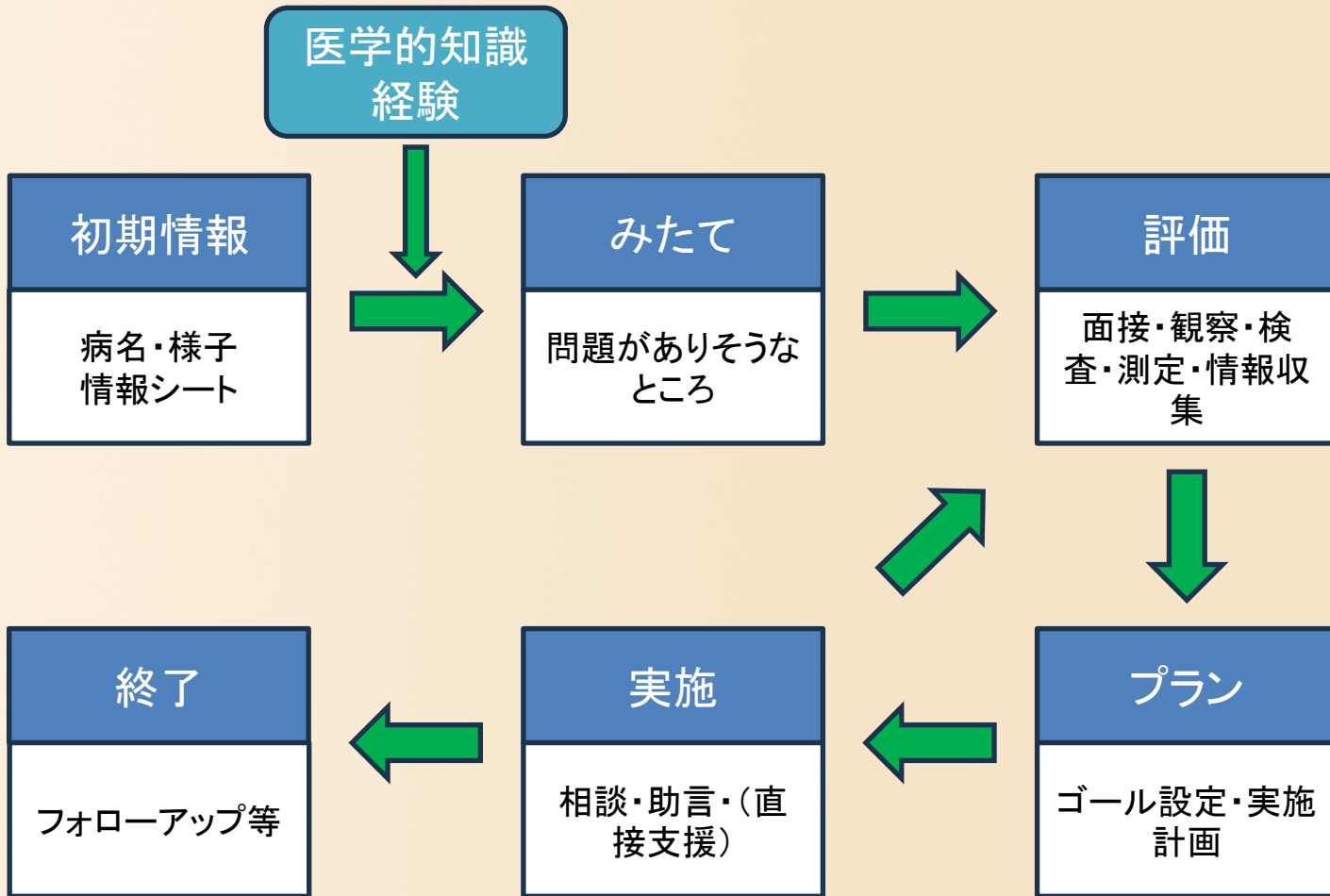
兵庫医科大学

リハビリテーション学部
小林隆司

作業療法の基本

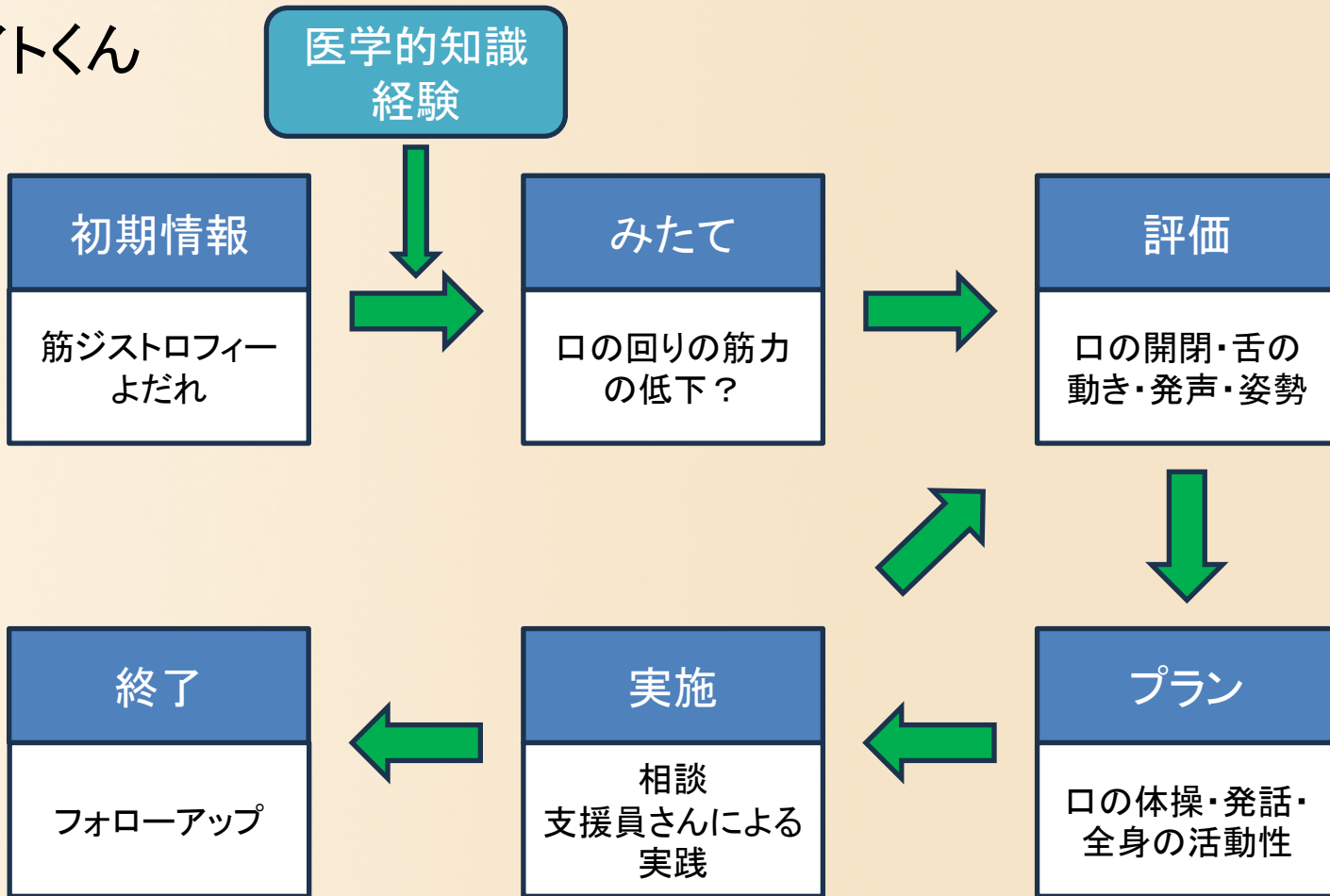


作業療法の基本プロセス

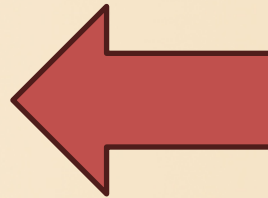
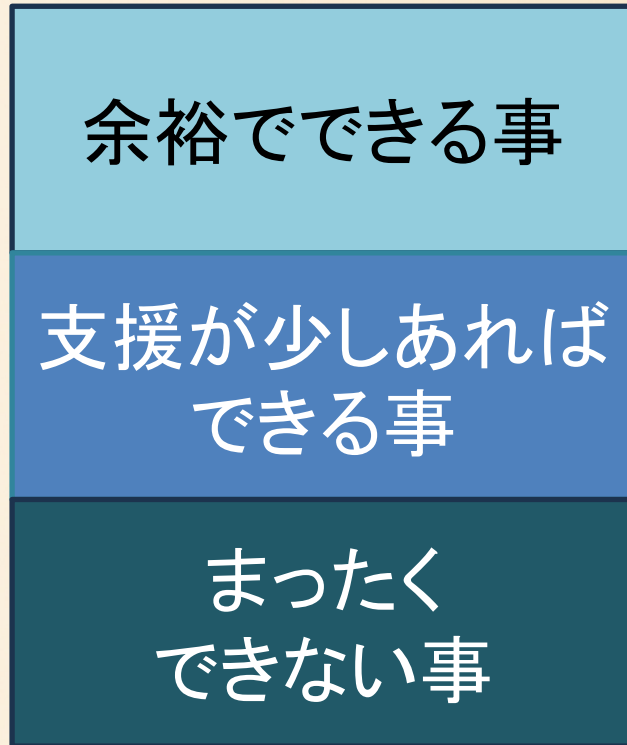


作業療法の基本プロセス

ケイトくん



作業療法の焦点



発達の最近接領域

一人でできることと、まだ自分ではできないことの間にある、一人ではできないけど、支援者や友人の助けがあればできる領域



事例

一般情報

- Bくん、男児、2年生、ASD（軽度）
- 通常学級

聞き取り内容

- 遊びの最中は友達と楽しく過ごせる
- トラブル発生時、自分の非が明らかなきは、素直に認め謝ることができる。
- 学校で起こったトラブルが解決されないまま来会し、それをふと思い出した時に気持ちがたかぶり、イライラが他の児童に向かうことがある。
- 学校でのトラブルを自宅で思い出した時に、激しい癇癢をおこす。
- 些細な事で腹を立て、感情を抑えることができず、暴言を発する。
- 興奮しているときには、他の児童から離れた場所で落ち着かせる。
- 対話を通じて学校での出来事をリセットする時間を設けている。



評価・分析

余裕でできる事	・ 友達と遊ぶ ・ 非を認めて謝る
支援が少しあればできる事	・ 他児から離すと落ち着く ・ 学校の出来事を聞くと話す
まったくできない事	・ 些細なことで爆発し気持ちを制御できない

原因・仮説

自分の感情に
気づきにくい



助言

- 昨年よりは落ち着いてきているとのことで、スタッフの皆さんや学校のかかわりが良い効果を生んでいると思います。特に、興奮しているときに、他の児童から離れた場所で落ち着かせたり、対話を通じて学校での出来事をリセットしたりする支援は、とてもよい実践と思いますので、続けていただけたらと思います。
- まだ2年生なので、自己コントロールは難しいと思いますが、まずは自分の状態に気が付くことができると思います。険しい表情などしていたら、温度計や天気にも例えて、感情の高ぶり度を報告していただいてもいいかもしれません。自分の状況に気が付いたら、クールダウンの方法を提案してみるのもいいと思います。児童それぞれのやり方が身に着くまでは、試行錯誤になるかもしれません。



結果（4か月後）

- 気持ちのコントロールができない時は、「気持ちのものをさし」の声掛けをし、今の状態を1～10の段階で本人が自覚できるようにしている。
- 指導する時は、席まで行き、落ち着いたトーンで2人きりで話すようにしている。
- 落ち着いて来会できる日が増えた。
- 感情が高ぶった時も声掛け一つでリセットできるようになってきた。
- クールダウンの方法（読書）が身についてきている
- 自宅でも落ち着いてきたとのこと。



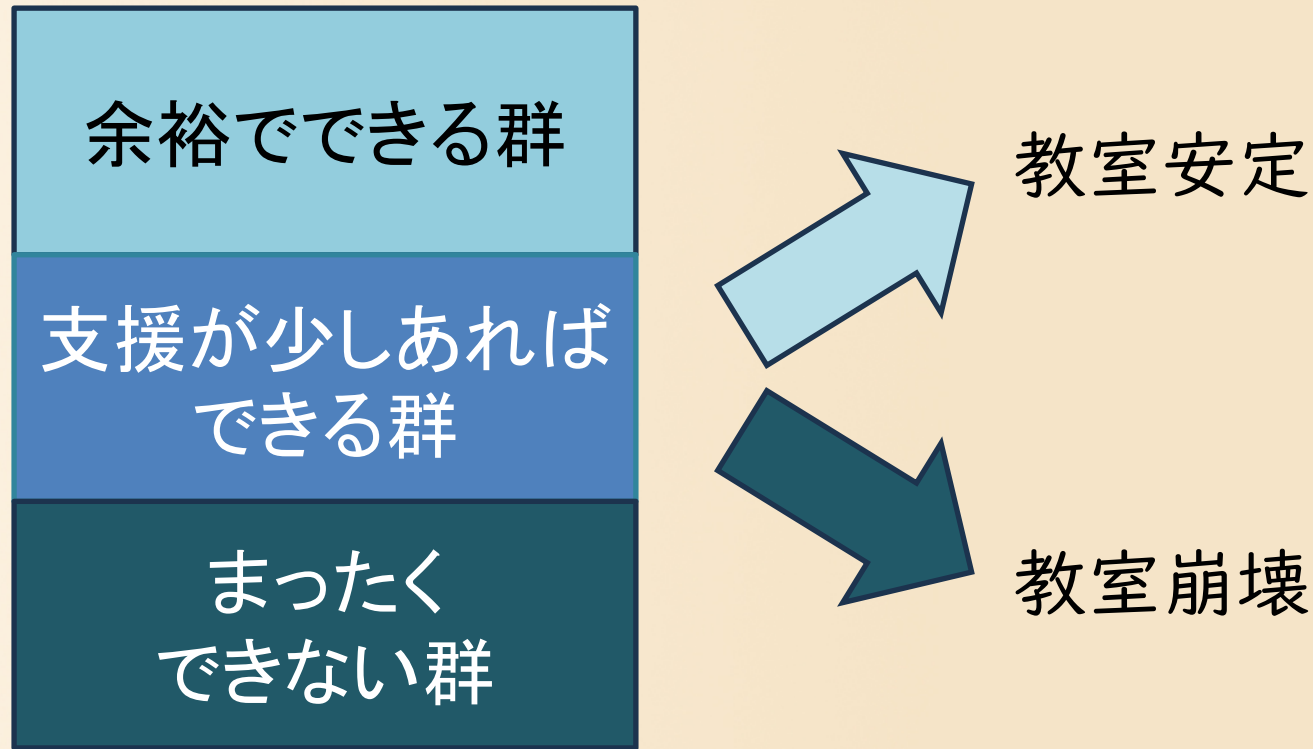
気持ちのものをさし



- | | |
|----|--------|
| 10 | ばくはつ |
| 9 | |
| 8 | おこる |
| 7 | |
| 6 | いらいら |
| 5 | |
| 4 | いやな気持ち |
| 3 | |
| 2 | ふつう |
| 1 | たのしい |



教室運営への応用



事例（助言）

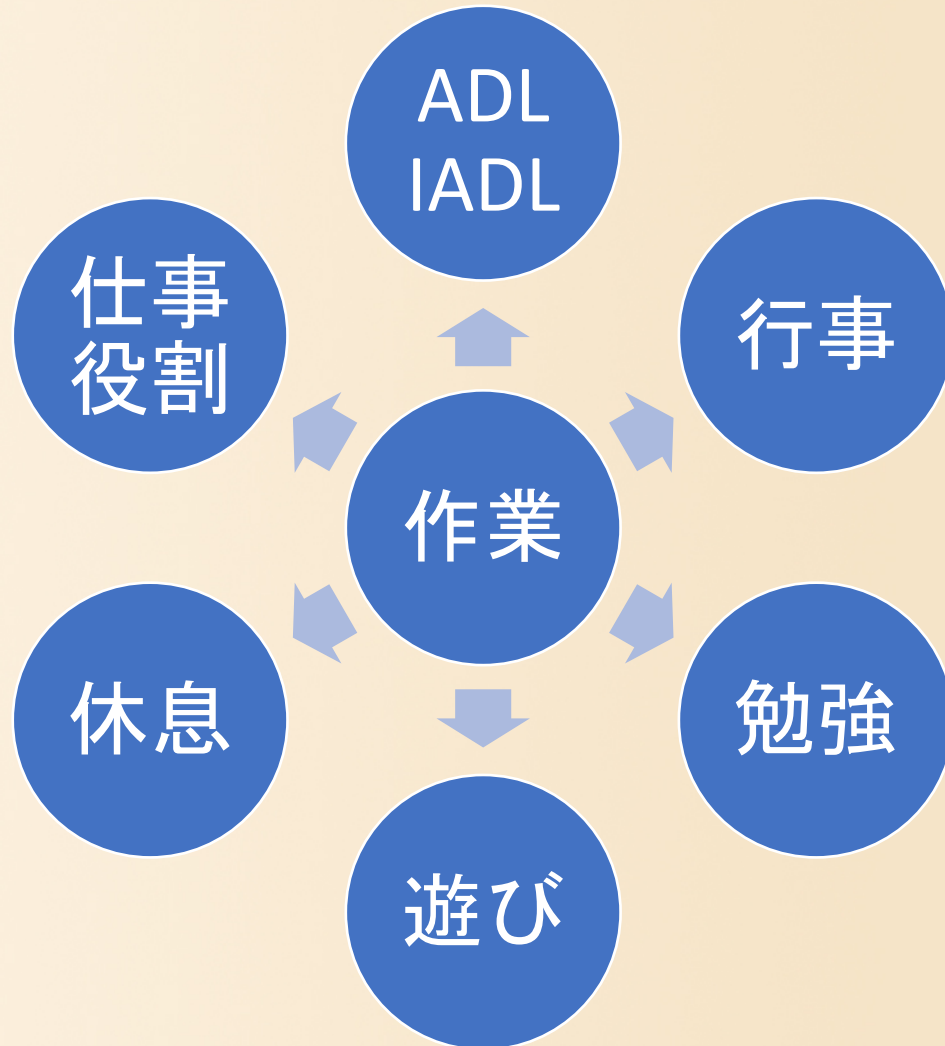
- 集団には、①問題となってしまう児童、②問題となってしまう児童、③何も言わなくても児童に影響されて反応してしまう児童、の三層くらいがあります。一番気を付けなければならないのは、②の児童達で、できたりできなかったり不安定な層です。②の層が①に引っ張られるとクラスは荒れますし、③に引っ張られるとおとなしいクラスになります。
- ②の児童に、よく声をかけてあげると思います。特にうまくできているときにこそ、「うまくできてる」と声をかけるといいと思います。この層は、気にかけてもらうことがまだ必要な群です。注意しても、そのあとにうまくできていたら、それに対して、「できた」と言ってあげると思います。
- ③に対しては、声がけは時々でいいと思います。①に対しては、注意は必要と思いますが、人の注目をひくことや相手をしてもらうことが、報酬になっている可能性もあり、②を引き上げることで、できたりできなかったりするようになると思います。



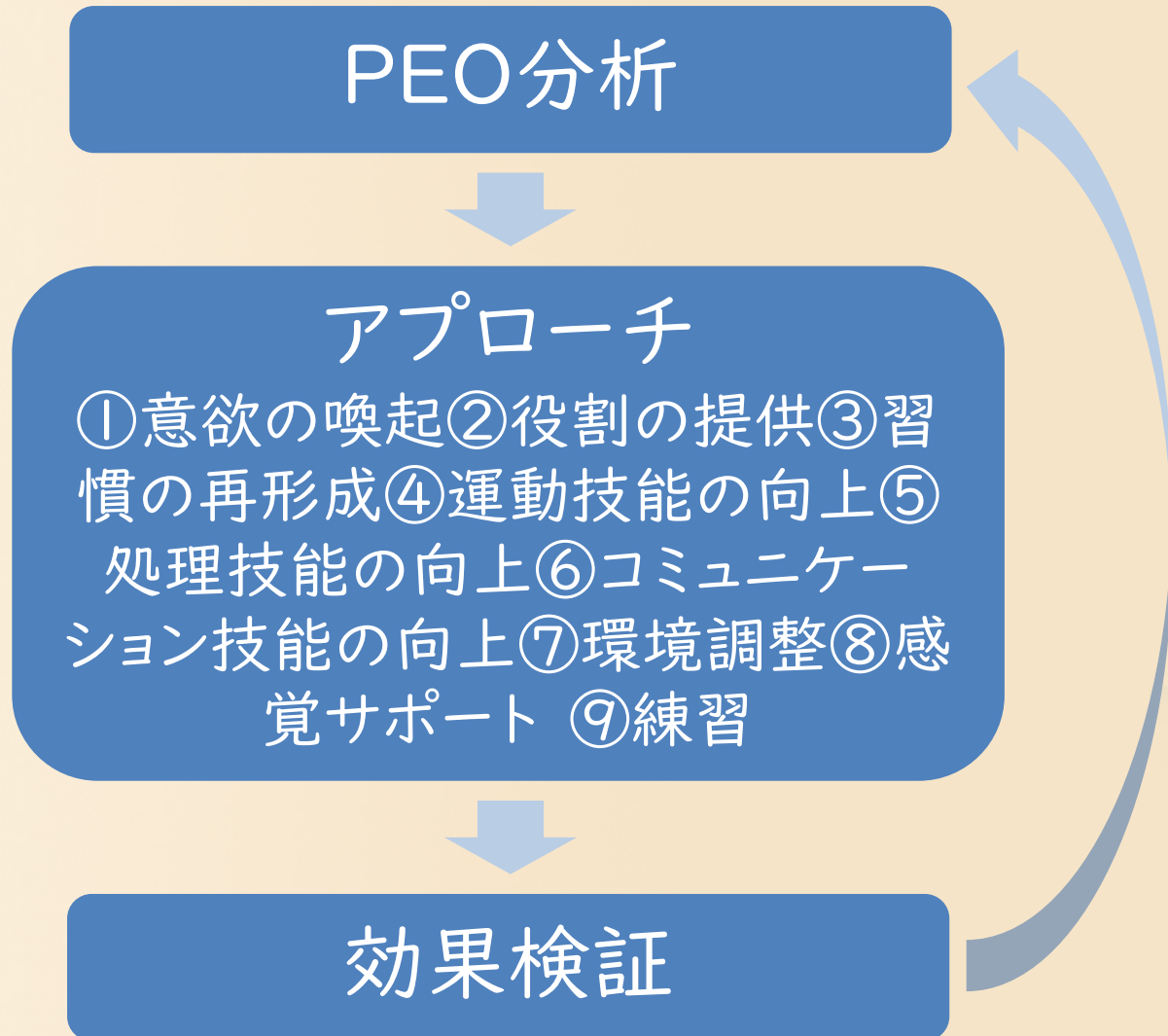
作業療法の実践モデル



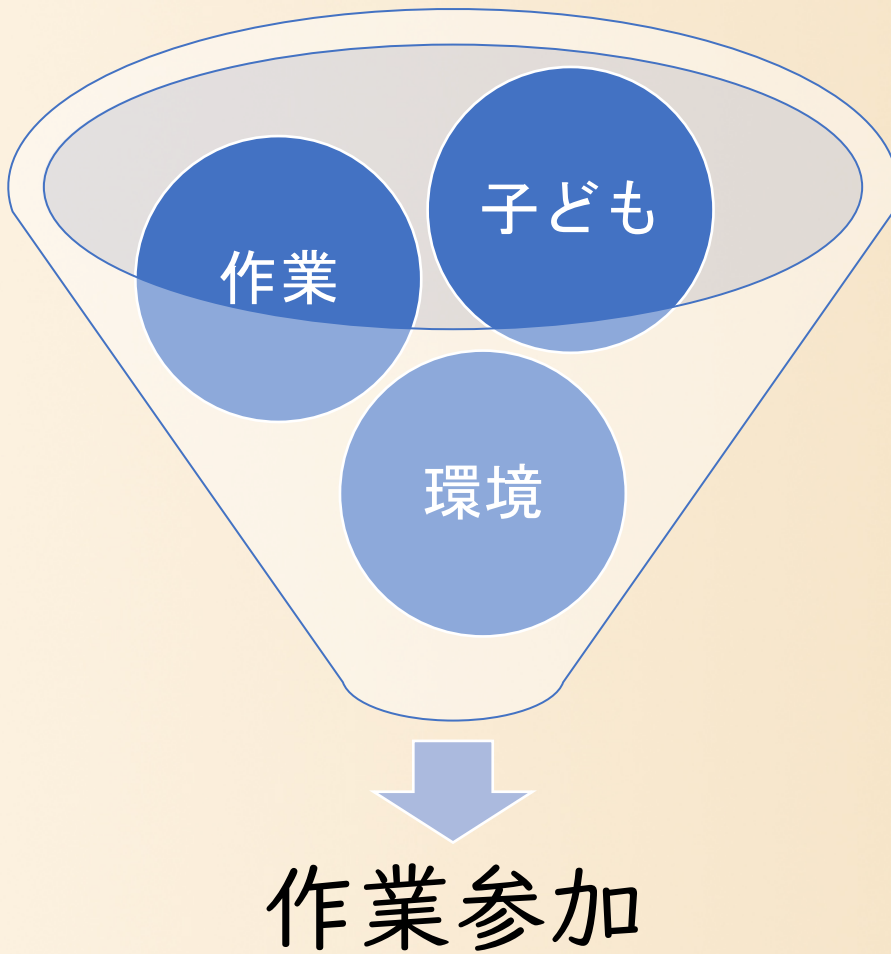
学童保育に見られる作業



作業療法のアプローチ（案）



PEOとは



子どもの作業参加は、子ども、
作業、環境の相互作用によって
成立する



PEO分析

- 子ども、環境、作業のこういった要素が子どもの作業参加を制限しているのか？
- 子ども、環境、作業のどこにアプローチしたら効果的か？
- 実施後に効果を検証し、試行錯誤を重ねる



①意欲の喚起

- 子どもが感じる(1)自身の能力や限界に関する知覚、(2)価値、(3)楽しみを変化させたり、発展させたりすることで、作業選択と作業参加を改善すること
- 意欲は、経験→解釈→予想→選択→経験といったプロセスの中で変化する

うまくできるかな？



やる意味があるかな？

これは好きなことかな？



実践例

作業	現状	アプローチ案
遊び 開始	サッカーのようなチームスポーツへの参加は、「自分は下手だから」と言って躊躇している。	スタッフとボールけりをする中で、スタッフや他の子ども達から、ポジティブなフィードバックを受けて、自分の能力を正しく解釈できるようにする



②役割の提供

- 適切な役割行動は、子どもの内的な役割台本に基づいている
- 役割台本は、社会的な立場と期待されるものを理解し、与えられた役割を演じるために必要な一群の行為を供給する
- 子どもが自身の役割レパートリーを広げたり、変更したり、発展させたりする機会を提供することで、作業参加を促進できる



実践例

作業	現状	アプローチ案
宿題 継続	絶えず体を動かし、落ち着きがなく、座って宿題に取り組めない	机や椅子の運搬係の役割を与え、運動休憩となるようにする



③習慣の再形成

- 習慣は、半ば自動的に定期的な作業参加をもたらす
- 習慣は、通常の時間の使い方をコントロールする
- 習慣は、作業行動のスタイルを生成する
- 子どもが自身の習慣パターンを広げたり、変更したり、発展させたりする機会を提供することで、作業参加を促進できる



実践例

作業	現状	アプローチ案
ADL IADL 開始	手を洗った後の手拭きが、スタッフの指示がないとできない	手拭きの習慣が確立している友人と一緒に手洗いをするようにしてみる



④運動技能の向上

- 自分の体や自分の環境内の物を動かす技能のこと
- Stabilizes, Aligns, Positions, Walks, Reaches, Bends, Coordinates, Manipulates, Flows, Moves, Transports, Lifts, Calibrates, Grips, Endures, Paces, 等
- 作業に主体的に参加する中で、運動技能を向上させることができる



実践例

作業	現状	アプローチ案
宿題 継続	筆圧が弱く、字がうすい。 消しゴムで上手く消せない。手首の背屈が十分でない	ボルダリングや雲梯のような遊びに導入してみる



⑤処理技能の向上

- 適切な時間の中で動作を論理的に配列したり、適切な道具や材料を選択したりして、遂行を課題解決に適応させること
- Paces, attends, heeds, chooses, uses, handles, inquires, initiates, continues, sequences, terminates, searches/locates, gathers, organizes, restores, navigates, notices/responds, adjusts, accommodates, benefits, 等
- 作業に主体的に参加する中で、処理技能を向上させることができる



実践例

作業	現状	アプローチ案
行事	遠足を計画しているが、慣れていない場面ではパニックをおこす可能性があり、参加をあきらめようとしている	スケジュールが把握できるような詳細な旅のしおりを作成して、見通しが持てるように、どの時点でどのように動いたらいいか話しあってみる



⑥コミュニケーション技能の向上

- 意図やニーズを伝えたり、他者と行動をともにするために必要な社会的技能を使うこと
- 接触する, 見つめる, ジェスチャーをする, 位置を変える, 正しく向く, 姿勢をとる, はっきりと発音する, 主張する, 尋ねる, かみ合う, 表現する, 声の調子を変える, 披露する, 話す, 持続する, 協業する, 従う, 焦点を当てる, 関係を取る, 尊重する, 等
- 作業に主体的に参加する中で、コミュニケーション技能を向上させることができる



実践例

作業	現状	アプローチ案
遊び 継続	おもちゃを貸してほしい とき等に、うまく声掛け ができず、力づくで奪っ てしまいトラブルになる	どのように声をかけたらよ かったのかを一緒に考え てみて、できれば練習・実 践してみる



⑦環境調整

- 子どもの物理的、社会的、感覚的環境を調整して、子どもの作業参加を促進すること
- 物理的環境には、自然環境、建物、家具や文房具などの生産品等が含まれる
- 社会的環境には、家族、友人、グループ、スタッフ、学校の先生、文化、社会等が含まれる
- 感覚的環境には、聴覚的、視覚的、触覚的、前庭覚的、固有受容覚的刺激等が含まれる



実践例

作業	現状	アプローチ案
宿題遊び開始	色々なものを学校に忘れてきて、しゅっちゅう取りにいった活動時間が制限されている	ランドセルにチェックリストを張り付けて、下校時にそれをもとに持ちものを確認するように助言してみる



⑧感覚サポート

- より効率的な感覚処理ができるようにサポートすることで、子どもの作業参加を促進する
- センソリーダイエット：子どもが必要としている刺激をあらかじめ生活スケジュールの中に組み込んで取り入れられるようにしたり、不快刺激を排除したりして、行動や情緒の安定を図る方法



実践例

作業	現状	アプローチ案
宿題 継続	教科書の音読や黙読 ができず、劣等感を感 じている	ブックスタンドで本を立て てみる、1行ずつ読めるよ うなリーディングトラッカー を試してみる



⑨練習

- 繰り返し練習してスキルを身につけることで、子どもの作業参加を促進する
- 全習or分習、集中or分散、結果の知識、順行連鎖or逆行連鎖、強化スケジュール等



実践例

作業	現状	アプローチ案
遊び 開始	縄跳びができないので、 友達の輪に入っていけ ない	まずは垂直ジャンプの練 習をする。できたらスタッフ の揺らす縄をとんでみる。 次に片手で縄の片方を握 り、もう一方はスタッフが 握った状態で飛んでみる



おわりに

- まずは作業療法の領域に共通した、基本的な考え方や技能で、学童保育の対象児や集団の援助が可能である。
- 医学的知識や経験は自然にアップデートされる。
- 難しい事例は小児専門の作業療法士につなぐ。
- 作業療法士らしい実践モデルを採用することで、地域で作業療法士に何かできるのかを説明しやすくなるのではないか。

